



# バッタと戯れる河川敷

会員 須見 健矢 (52期)



## 1 虫が好き

私は、東京生まれの東京育ち。都会っ子は、何故か田舎の自然、里山の風景に憧れる。私は、子どものころから虫が大好きで、夏休みに田舎の親戚宅に行くと、カブトムシやクワガタ、キリギリスといった昆虫を捕るのが毎年楽しみにしていた。

成長するにつれて、虫に接する機会は減っていったが、実務修習中も、当時住んでいたマンションの階段の灯り目がけて飛んできたクワガタを複数種拾って飼育などして、こっそりと趣味を続けていた。

弁護士になってからは、観賞魚の飼育に興味に移っていったが、昆虫に対する興味が失われたわけではなかった。特に、子どもが生まれてからは、堂々と（恥ずかしくなく）捕虫網を手にとり、子どもと一緒に昆虫採集に興じることができた。子どもよりも親の方が楽しんでいると思う。

## 2 意外と東京にもいる虫

東京都心でも意外とたくさんの虫を見付けることができる。例えば、新宿区内の歩道では、「コクワガタ」という小型のクワガタ虫を見付けた。また、夏の夜の地下鉄四ツ谷駅のホーム上では、普段声はすれどなかなか見られる機会のない「ツツクボウシ」というセミが多数見られた。また、SNSでは、玉虫厨子で有名な「タムシ」が弁護士会館の玄関前にいたとの投稿がされていた。

このように、東京でも虫はたくさんいるのだが、関心をもっていれば、公園などそこら中に虫を見付けることができる。

最近では、本来西日本にしかいなかったはずの「クマゼミ」という大型のセミや「ナガサキアゲハ」という

大型の蝶を近所でも見かけるようになり、温暖化の影響を心配している。

私は、わざわざ遠くの田舎に出かけて虫を追いかけるというよりも、地元である東京の都会の片隅でひっそりと健気に暮らしている虫を観察する方が好きである。

## 3 バッタが好き

私が今一番好きな昆虫はバッタである。厳密には、直翅目と分類されるもので、バッタ、コオロギ、キリギリス、カマキリなどを含む。ただ、何故好きかと問われると、返答に困る。あえて理由をあげれば、バッタの鮮やかなグリーンや模様が好き、草を食べる姿がかわいい、顔が個性的、飛び跳ねる姿が躍動的、鳴き声に趣がある、といったところか。

バッタは、公園、空き地など雑草が生えていればどこにでもいる。特に、河川敷の草原は、バッタたちの絶好の住処である。人があまり足を踏み入れない場所なのでたくさんの種類を見かける。私がよく行く近所の河川敷では、「ショウリョウバッタ」、「クルマバッタモドキ」、「トノサマバッタ」、「コバネイナゴ」、「ツチイナゴ」、「クビキリギリス」、「ササキリ」、「カンタン」、「ツユムシ」などがよく見つかる。更に、同じ河川敷では、東京都では絶滅危惧Ⅱ類（絶滅の危険が増大している種）に指定されている「ショウリョウバッタモドキ」もよく見られるが、残念ながら、同じく絶滅危惧Ⅰ類（絶滅の危機に瀕している種）に指定されている「クルマバッタ」の姿は全く見られない。毎年夏に同じ場所を観察して淡いグリーン細身の「ショウリョウバッタモドキ」を見つけては安堵しているが、バッタの存在が環境保全に対する指標にもなっている。